

北陸石仏の会々報

第 10 号

平成7年5月17日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

電話 〇七六三―三二二―二七七二

振替 〇〇七四〇―二二―一九七四

海門寺の地藏半跏像

尾田 武雄

ちょうど小雨が降りつづいて七尾市海門寺に着いた頃は、雨足も強くなっていた。私の目当ては、二年前にお会いした山門前に鎮座する地藏半跏像である。あの時と、まったくお変わりのない姿で、大振りの宝篋印塔の笠の上に、じっとたたずんでおられた。

私が、石仏調査を始めた頃、地元の祖泉神社の前の小堂の中に、明らかに近世の石仏でない、白乳色の石材で出来た地藏半跏像に魅せられていた。それからもう、かれこれ十五年近くも、このような地藏様を求め歩いたものであった。

砺波市内では、正権寺の五社神社のご神体だったといわれるものや、東中の神社、また下中条の神社の中などに置かれていることなどを、知ることができた。その後、砺波地方全域を調査することができ、福野町安居寺の秘仏地主地藏を斎藤善雄さんの計らいで、拝見する機会を得るなど、十二体を拝見することができた。

それらを、総合するといろいろのことがわかり、またいろいろのことが分からなくなりました。そんなこともあり、氷見の田中清一さんのご協力で、氷見地方の古い地藏半跏像を拝観することができ、三十六体も拝することができました。

祖泉神社の地藏半跏像は、氷見地方の地藏半跏像とあまりにも酷似するところが多く、その広がり調べたくなり、能登半島や加賀地方にも足を延ばしたりしていました。

能登や加賀は、故桜井甚一さんが中世石造物を精力的に調査されており、それをなぞるように能登や加賀を探訪しました。その石仏探訪には平井一雄さんや、彫刻家の藤井治紀さんらとともに行きました。

その際に出会ったのが、この海門寺地藏半跏像であった。



第10回例会出席者

太田幸子、大久保まさ子、辻角紀子、
 小竹一夫、神佐喜久美、毛利直江、
 南外志雄、沢村美雪、上田信子、
 大野猪策、福田芳子、宝勝他女、
 前田英雄、前田松代、長原忠夫、
 長原聡子、猪谷 勇、山崎八洲恵、
 久世嘉太郎、久世文子、寺本道子、
 斉藤善夫、尾田武雄、柳沢栄司、
 林 貞子、南 金三、滝本靖士、
 富田 幸、野上笑子、野村輝子、
 島倉千春、島倉 巖、島倉初美、
 白田博以、猪谷春恵、平井一雄、
 北村市朗、木村照男

例会報告

① 丹治山福水寺遺跡の石仏群

丹治山福水寺遺跡の石仏に関しては『能登加賀の中世文化』
 (桜井甚一・著 北国新聞社・発行)に詳細に報告されている。
 今回は、白山神社左手の通称「藤の森」と呼ばれる所の石仏
 群と中山家墓地の幾内系五輪塔所刻板碑を見学。



滝本 靖士

藤の森の石仏

- 板碑……………金剛界大日種子板碑 一基
- 石仏(像)……………地蔵半跏像 一基
- 如来形坐像 一体
- 石塔……………五輪塔 一〇基余
- 宝篋印塔(笠のみ) 一基



幾内系五輪塔所刻板碑

② 山田寺の石仏

山田寺は天平宝字元年(七五七)泰澄大師の創建と伝えら
 れ、北陸三十三ヶ所観音霊場の第二十番で、本尊は十一面観世
 音菩薩である。

青面金剛像(庚申)

木造小堂内に三十三ヶ所観音他と共に置かれている。
 本体高約一四〇cmの庚申塔で、一面六手の青面金剛像である。
 頭部形状は丸い帽子状であるが日・月輪、輪後光を配し脚下に邪
 鬼を踏みつけ三猿、二鶏、四葉叉を伴う。葉叉を伴う庚申像は、

北陸では富山県東部に多くみられるが、石川県内では唯一と思われる。寺の入口の案内板には約六〇〇年前(室町時代)と書かれているが誤りである。昭和の作ではないかと考えられる。

金泥大日種子板碑

庫裡に保管されている。

高さ約二十七cmの小型の板碑で、金剛界大日の種子『バン』を刻み円相、蓮座が配されている。この板碑は、種子や円相に朱を入れさらに金泥が施されている。朱や金泥は僅かしか残っていないが、このような装飾は石川県内の板碑では他に例をみない。

その他の石仏

山田寺には他に板碑三基(金剛界大日種子『バン』二基、胎蔵界大日種子『ア』一基)と地藏、観音が数体みられる。

③ 良川の三宝荒神

鳥屋町良川的路傍の小堂に納められている。

一見青面金剛(庚申)のように見えるが、持物等をよく見ると三宝荒神であることがわかる。本体高約六十二cmの三面六手像で、庚申ではないので邪鬼や猿などは彫られていない。

三宝荒神は仏・法・僧の三宝を守る荒神とされているが、仏教の經典には説かれていない民間信仰の神である。

三宝荒神の石像は数が少なく、石川県内では他の造立を確認していない。また富山県内でも石造三体と文字塔一基を確認するのみである。

④ 黒氏の青面金剛(庚申)

鳥屋町黒氏の路傍の小堂に納められている。

一面六手像で持物は一般的なものである。本体高約四十九cmの小型の庚申像であるが、日・月輪、輪後光を配し、脚下に邪鬼を踏みつけ二童子を伴う。猿、鶏、葉又は彫られていない。

七尾市藤橋町の青面金剛像と似ているように思われるのだが…

いずれの像も年代的には古いものではなさそうである。

石川県内で確認している青面金剛像は七体(七尾市三、鳥屋町二、小松市一、加賀市一)のみで、他に三猿像や『庚申』、『青面金剛』等の文字塔が能登地方を中心にみられる。

⑤ 海門寺の石仏

大龍山海門寺は、釈迦如来を本尊とする曹洞宗の寺で、開創年次や開山は不詳であるが畠山氏の建立で三〇〇貫の地を寺領として寄進したと伝えられている。木造千手観音像を安置しており、能登国三十三ヶ所観音霊場の第五番札所である。

開山無縫塔

墓地に建てられている。

天正四年(一五六七)六月十四日の日付が刻まれている。銘によると、中興開山で建長寺前住の東岳受旭は畠山慶致の次男である。

結界石

「山門禁葦酒」と刻まれた石塔で、こちらも近年出土したものである。

⑥ 小島 山の寺 寺院群の石仏

七尾市商工観光課発行の『山の寺 遊歩道へのお誘い』に各寺の縁起・文化財等が書かれています。石仏に関してはほとんど書かれていないので簡単に紹介します。

妙観院

有名な唐門づくりの山門の寺で、山門内に八手の弁財天像を安置しています。狭い境内ですが多くの地蔵や観音が置かれています。

長興寺

大きな石灯籠が立ち並び圧倒されます。「七面大明神」と刻まれた明治二十七年の石塔が目につきます。子育安産の神である鬼子母神が守護神として祀られています。

恵眼寺

山門の両脇に六地蔵が置かれています。また境内に二体の観音が見られます。

長寿寺

八百屋お七の供養塔があります。これは「南無妙法蓮華経」と

刻む題目塔です。

成蓮寺

天保十五年銘の日観題目塔があります。また門前にもヒゲ文字の題目塔がみられます。

常通寺

参道に文政六年銘の徳本名号塔が、また入口に六地蔵があります。

宝懂寺

境内に丸い文字の名号塔があります。花押の部分がはっきりとしません。義賢の名号塔でしょうか。

長齡寺

参道(石段)の途中に「青面金剛」の文字を刻む庚申塔があります。真中で二つに折れています。石段を上ると右手の小堂に観音・地蔵・板碑が置かれています。また左手の石廟に前田利家・利長の供養塔(宝篋印塔)があります。

牛供養の大日如来石仏

平井 一雄

四月九日の第十回例会は七尾市小島の「妙観院」が山寺めぐりの最後のコースでした。雨の中の見学でしたが、この寺の左側の入口に写真①のような文字碑がありました。

「ア（梵字）牛追善塔」と記してあります。「うしおいぜんとう」と読みかけましたが、「うしついでんとう」と読むのが正しいでしょう。問題は頭の梵字です。阿「ア」字は胎蔵界大日如来種子です。

私は「日本の石仏」一九九五春No.73に「神通川流域の大日如来石仏」を書き、大日如来と牛供養信仰の実例を報告しました。この阿字牛追善塔も同じ信仰のながれではないでしょうか。「日本の石仏」誌に掲載された口絵写真の東漆山（岐阜県神岡町）の地蔵堂裏には六体の金剛界大日如来石仏があります。このうち二体の大日如来（写真②）に牛の字が入った銘文が刻まれています。京田良志副会長のご教示により銘文の解説ができましたので報告します。

左側の大日如来向かって右側上には「為牛」と刻まれています。右側の丸彫り大日の台座の正面に「為牛貳疋」と刻まれています。「うし二ひきのため」と読むのでしょうか。

疋は匹と同じで意味で明治時代までは獣を数える単位で足をあらわす漢字だそうです。

現在馬とか牛を数えるのに使っている頭（とう）は戦前の辞典

には載っていません。

台座の左側面には「明治元年□□」、左側面には「漆山村 田中□□」と刻まれています。東漆山は享和年間（一八〇一）に書かれた『高原舊事』には、家数十二軒人数六十三人と記されていますが手持ちの昭和五十八年発行の神岡町住宅地図には六軒の住宅が描かれています。田中徳兵衛さんの先祖が愛牛二疋供養の大日如来を奉納したのでしょうか。

この地蔵堂の回りには、大日如来の他に道祖神一体、青面金剛像一体、六地蔵一組、西国三十三番観音巡礼記念碑、不動明王二体、地蔵二体が安置され石仏愛好者には見逃せない霊地です。ちなみに地蔵堂は鍵がかかっており拝めませんが、昔から痰咳の病に効験がある地蔵さんとして親しまれており、川向かいの西漆山大悲山正眼寺にある靈験著しい地蔵尊の写しであるといわれています。



妙観院

① 牛追善塔

東漆山

追記 東猪谷(大沢野町)大森駄宅前に「畜生三界万霊」と刻んだ大日如来像があります。大森さん宅では花は供えておられるが伝承は聞いておられないようです。嘉永六年の銘がありますのでやはり牛供養の大日如来と考えてよいのではないのでしょうか。
平成七年五月八日

石仏紹介

富山県大沢野町、上大久保二区(旧田村町)に昔、飛驒街道の松(通称天狗の松)があった。今その場所に祠堂があり、その中に三体の石仏が安置されている。中央に地藏菩薩、左に金毘羅王、右に天狗の三体である。金毘羅王の石像とは珍しいので紹介する。

金毘羅王は、金毘羅神、又は十二神将の宮毘羅大将とも云う。讃岐の金毘羅大権現は、伝教大師が唐から帰る時、金毘羅神を招じて祭ったものとの説もあるが、海難除け、水難除けの神として絶大な信仰を得て、今でも多数の参詣者が跡を絶たない。

(第一書房・新纂仏像図鑑上巻・観音二十八部衆一三七図参照)



平成七年度

新潟県石仏の会・中越地区見学会

(兼・日本石仏協会北陸支部例会)

日時 六月十八日(日)午前九時三〇分〜午後三時

集合場所：柏崎市立博物館 赤坂山公園内

柏崎駅から徒歩約二〇分(駅南口より八時一〇分発、八時二八分着バスあり)

コース 鯖石川に沿って(田尻→中鯖石→南鯖石→高柳町)見所 様々な石造物との出会いの中で「楽しむ」

田尻地区(明神) 道祖神(自然石・双体像)

中鯖石(清竜寺) 弘法大師塔(弥勒菩薩像)・後生車・大随求陀羅尼塔・黒姫大神・淡島大明神など

(不動滝) 不動明王

(浄興寺) 一石六地藏・悲母観音

(佐之久) 双体道祖神二体

南鯖石(安住寺) 文殊・普賢菩薩像 *木喰仏見学

(福寿院) 疱瘡神塔・光明真言塔・さいの神

石祠

高柳町(磯之辺) 越後三十三番霊場本尊「石仏如意

輪観音像」

風神像・白山権現像・山の神など

参加費 一、〇〇〇円(資料代含む) 昼食持参

申込 ハガキに次の事項を記入の上左記へ申し込み願います。

追記 東猪谷(大沢野町)大森駄宅前に「畜生三界万霊」と刻んだ大日如来像があります。大森さん宅では花は供えておられるが伝承は聞いておられないようです。嘉永六年の銘がありますのでやはり牛供養の大日如来と考えてよいのではないのでしょうか。
平成七年五月八日

石仏紹介

富山県大沢野町、上大久保二区(旧田村町)に昔、飛驒街道の松(通称天狗の松)があった。今その場所に祠堂があり、その中に三体の石仏が安置されている。中央に地藏菩薩、左に金毘羅王、右に天狗の三体である。金毘羅王の石像とは珍しいので紹介する。

金毘羅王は、金毘羅神、又は十二神将の宮毘羅大将とも云う。讃岐の金毘羅大権現は、伝教大師が唐から帰る時、金毘羅神を招じて祭ったものとの説もあるが、海難除け、水難除けの神として絶大な信仰を得て、今でも多数の参詣者が跡を絶たない。

(第一書房・新纂仏像図鑑上巻・観音二十八部衆一三七図参照)



平成七年度

新潟県石仏の会・中越地区見学会

(兼・日本石仏協会北陸支部例会)

日時 六月十八日(日)午前九時三〇分〜午後三時

集合場所：柏崎市立博物館 赤坂山公園内

柏崎駅から徒歩約二〇分(駅南口より八時一〇分発、八時二八分着バスあり)

コース 鯖石川に沿って(田尻→中鯖石→南鯖石→高柳町)見所 様々な石造物との出会いの中で「楽しむ」

田尻地区(明神) 道祖神(自然石・双体像)

中鯖石(清竜寺) 弘法大師塔(弥勒菩薩像)・後生車・大随求陀羅尼塔・黒姫大神・淡島大明神など

(不動滝) 不動明王

(浄興寺) 一石六地藏・悲母観音

(佐之久) 双体道祖神二体

南鯖石(安住寺) 文殊・普賢菩薩像 *木喰仏見学

(福寿院) 疱瘡神塔・光明真言塔・さいの神

石祠

高柳町(磯之辺) 越後三十三番霊場本尊「石仏如意輪観音像」

風神像・白山権現像・山の神など

輪観音像

参加費 一、〇〇〇円(資料代含む) 昼食持参

申込 ハガキに次の事項を記入の上左記へ申し込み願います。

申込

案内

●石仏ビデオができました。
『となみの石仏』

①住所・氏名・電話 ②車の有無

千九四五 柏崎市緑町八一三五

柏崎市立博物館 渡辺三四一

TEL〇二五七―二二一〇五六七

一巻	砺波地方の石仏の概説 中筋往来の石仏(庄川町、砺波市)
二巻	安居寺の石仏(福野町) 瑞泉寺から杉谷峠の石仏(井波町)
三巻	中世石造物と水天、風天(井口村) 殿様道と火伏石(福光町)
四巻	地藏祭りと太子南無仏(城端町) 中筋往来と万福寺の石仏(砺波市)
五巻	庄川右岸と葉勝寺(庄川町、砺波市) 稻荷、恵比寿、天神などの石神(砺波市)
六巻	太子道と景完教寺(砺波市) 砺波地方の石仏について対談

これは砺波衛星通信テレビで平成六年四月から平成七年三月までに、有線テレビで放送されたものです。事務局の尾田武雄さんが、解説を行っています。放送中から大変に好評でビデオにして

販売されたものです。

各二、〇〇〇円 セット一二、〇〇〇円です。ご希望のかたは、事務局までご連絡ください。

●高岡市婦人ボランティアよつば会編『南條校下の石仏をたずねて』が発刊されました。石仏一四八体、石造物一八九基の報告があります。ご希望のかたは、一冊一、三〇〇円です。大浦美子さんまでご連絡下さい。

●会員の久世嘉太郎さん(津幡町)、南金三さん(小矢部市)等が、徳本名号のような書体の「義賢」名号を調査されています。会員の中に、義賢について知っている方がいましたら、ご連絡ください。

●佐伯安一さん(砺波市)や、尾田武雄さんらが『村に馬がいたころ』という冊子を発刊されました。尾田武雄さんが、「太田に息づく馬頭観音」を書き、砺波地方の馬頭観音石仏について言及している。

●平井一雄さんが『日本の石仏』No.72で「神通川流域の大日如来石仏」発表。

●京田良志さん(富山市)が、伝統的工芸品産業審議会専門委員に任命されました。茨城県真壁町(陶器の益子町の近く)が、同町産の石灯籠を伝統工芸品に指定申請したことにともない、そのお手伝いのためとのこと。